

西日本高速道路株式会社 四国支社では、四国横断自動車道 吉野川渡河部の整備にあたって、生物の生息・生育環境の保全に向け、専門家から必要な指導、助言を得るため「四国横断自動車道 吉野川渡河部の環境保全に関する検討会」を設置し検討しております。

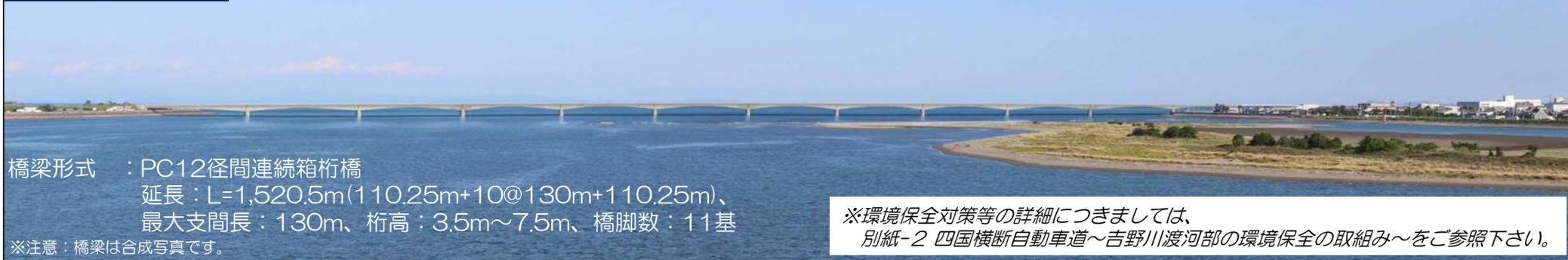
このたび、検討会において**優位とされた橋梁形式と施工方法の採用、環境モニタリング調査の実施**が環境保全対策(原案)として示されました。この環境保全対策(原案)をよりよい計画にするためのご意見を募集いたします。

■ 吉野川渡河部の橋梁完成予想 (阿波しらさぎ大橋より吉野川渡河部を望む)

【橋梁整備前】



【橋梁整備後】



橋梁形式 : PC12径間連続箱桁橋
 延長 : L=1,520.5m (110.25m+10@130m+110.25m)、
 最大支間長 : 130m、桁高 : 3.5m~7.5m、橋脚数 : 11基

※注意 : 橋梁は合成写真です。

※環境保全対策等の詳細につきましては、
 別紙-2 四国横断自動車道~吉野川渡河部の環境保全の取組み~をご参照下さい。

■ 環境保全対策(原案)の主な内容

対策1 : 環境保全に配慮した橋梁形式の採用

- 1-1 上部構造は渡り鳥の飛翔に配慮し、主塔、ケーブルのない桁橋を採用しました。
 - 1-2 橋梁整備では下部工施工時の浚渫と比較して、上部工架設時に台船を用いると浚渫が大規模になることから、河床浚渫が生じない架設方法による橋梁形式を採用しました。
 - 1-3 下部工(橋脚)による流況への影響が少なくなるように、橋脚数を減らしました。
- ※その他の環境保全への配慮として、ルイスハンミョウの回廊(移動経路)については、橋梁構造のため妨げになりにくく、施工時にも空間を確保するよう配慮します。

対策2 : 工事中の環境保全対策

- ・ 工事中は水質汚濁、騒音や振動の対策を実施します。
- ・ 浚渫土砂は、影響の少ない処理方法を検討します。

対策3 : 環境モニタリング調査の実施

- ・ 橋梁整備による水の汚れや騒音・振動と生物への影響を監視します。

